

鎌倉市 歩行者移動支援、オープンデータ に関する取組

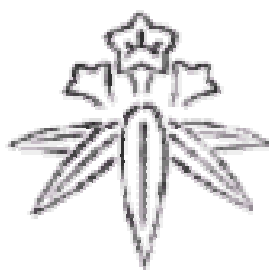
鎌倉市の概要

神奈川県南東部に位置し、5つの行政区からなる鎌倉市は、鎌倉幕府が開かれて以来800有余年に及ぶ次代を経た、世界に誇る貴重な歴史的文化的遺産と、明るく広がる海や緑豊かな丘陵の自然環境に恵まれるまちであり、年間延べ2,000万人を超える観光客が訪れる。



市の花:リンドウ

市章:ササリンドウ



藤原時代に貴族の衣服の文様として用いられ、村上源氏一門の家紋としても知られています。

- * 面積 39.53km²
- * 人口 173,012人(H27.3.1)
(男性:81,465人・女性:91,547人)
- * 世帯 73,532世帯(H27.3.1)
- * 市制記念日 昭和14年11月3日
- * 延べ観光客数 2,308万人
宿泊者数 32万人
宿泊率 1.6%
(参考:京都市 26.2%) ※H25実績

ユニバーサルデザインに関する取組

ユニバーサルデザインに向けた課題

- 人口：人口減少と少子化・高齢化の進行。
- 道路：歩車道分離や段差解消が不十分。車椅子等での通行不能な場所も多い状況。
- 公共交通機関、施設：バス、電車等の車両や駅等の施設で、車椅子の利用やエレベータの確保等の改善が不十分。
- 地形：鎌倉独自の地形(谷戸の奥や丘陵部等)による交通不便地域。



ユニバーサルデザインに向けた取組み

『都市マスタープラン』を策定(平成27年9月)し、ユニバーサルデザインの取組を推進

- 歩行者空間の充実
- 歩行及び自転車利用の促進
- 公共交通機関の充実

オープンデータに関する取組(1)

①鎌倉市オープンデータポータル開設

- 平成26年9月にオープンデータポータルを開設し、オープンデータに関する取組みを開始。
- 人口統計、文化財、市内AED設置情報、市内トイレ情報、災害時避難所等の位置情報、公共施設など、可能なデータから公開。



データ利用に関する外部からの問い合わせ例

- 広報紙データをまとめる「マイ広報紙」(<https://mykoho.jp/>)などから、オープンデータポータル開設により、データ利用に関する問い合わせなど、反響があった。

オープンデータに関する取組(2)

② 「三浦半島4市1町におけるオープンデータ推進に関するガイドライン」の作成

- 横須賀市、葉山市、鎌倉市、逗子市、三浦市の4市1町による、オープンデータ推進に関するガイドラインを策定(平成27年2月)し、周辺市と連携し、オープンデータを推進中。
⇒4市1町での共通化の取組を参考に、神奈川県が県内全市の避難所情報・AEDをオープンデータ化。

③ 国土地理院「防災アプリ実証実験」の開催

- 平成27年度、国土地理院にて防災アプリを公募。鎌倉市に関する防災地理空間情報(避難所データ、標高データ、津波浸水予想データ、津波到着予想時間データ等の被害想定データ、等)を応募者のみに公開。
- 審査の上選考された防災アプリが体験できる一般向け実証実験を鎌倉市内にて実施。



現在地から登録した避難所を表示



津波浸水域を表示



津波浸水深をAR上で表示

歩行者移動支援に関する取組(1)

①歩行者移動支援に資するオープンデータの整備

- 「オープンデータを活用した歩行者移動支援の取組に関するガイドライン(国土交通省政策統括官付 平成27年9月)」を参考に、歩行者移動支援に資するデータ整備を実施(平成28年1~2月)。
- 主要観光エリアの歩行空間ネットワークデータを整備。
 - ・ 国土交通省「歩行空間ネットワークデータ整備仕様案」を参考に作成。
- 公共施設、観光施設等の施設データを整備。
 - ・ 既にオープンデータとして公開している市が管理する公共施設の基本情報に対し、多目的トイレ、スロープの有無等のバリアフリー設備の情報を地域のNPOや有志の市民等の調査により付加。

【施設データに付加したバリアフリー設備の項目(全6項目)】

入口の段差の有無、スロープの有無、
多目的トイレの有無、
エレベータ(障がい者対応)の有無、階段昇降機の有無
点字・触図等の案内図の有無

歩行者移動支援に関する取組(3)

②イベントの開催

- イベント名: 鎌倉まちあるきアイデアソン@長谷別邸
～歩行者移動支援とユニバーサルツーリズム～
- 日程: 平成28年2月6日(土)
- 目的: 鎌倉市を訪れる人たちの移動を支援する情報として、観光スポット・公共施設等のバリアフリー設備の情報を集め、鎌倉市のオープンデータとして整備する。さらに施設データや防災関連のデータ等を用いたサービス創出の可能性について確認する。
- 実施概要:
 1. 鎌倉市のオープンデータ、国土地理院が収集した防災地理空間情報(避難所、標高、被害想定データ、等)について紹介。
 2. 鎌倉市の観光スポット・公共施設のバリアフリー情報(多目的トイレの有無、入口の段差の有無等)について情報収集。収集した情報の整理又はデジタルデータ化。
 3. 各種施設データや防災関連データ等を活用したサービスについてアイデア出し、成果発表。
- 主催・共催・協力団体:
 - (主催) カマコン
 - (共催) 鎌倉市
 - (協力) 国土交通省

⇒ 近隣3市連携によるオープンデータ活用を推進

イベントで選出された優秀な作品は、2月20日に行う『鎌倉・横須賀・横浜3市連携ハッカソン成果発表会&フューチャーセッション』の中で、横須賀・横浜が行ったイベントで選出された作品とあわせて出し、最優秀作品を決定する。

歩行者移動支援に関する取組(4)

「鎌倉まちあるきアイデアソン@長谷別邸」スケジュール

時間	項目
AM	主催者挨拶、趣旨説明
	関係者(かまくらっふ、i-link-u)からの情報提供
	データ収集(現地調査)・データ化
PM	ブレインストーミング/チーム分け
	アイデア出し
	発表
	投票/表彰

歩行者移動支援に関する取組(5)

「鎌倉まちあるきアイデアソン@長谷別邸」開催時の様子①

- ◆ 鎌倉の歴史ある街並みにとけ込んだ、和の雰囲気溢れる邸宅である長谷別邸で開催し、約20名が参加



- ◆ ユニバーサルな街歩き関わる活動をしている「かまくらっふ」「i-link-u」から活動内容を紹介



歩行者移動支援に関する取組(6)

「鎌倉まちあるきアイデアソン@長谷別邸」開催時の様子②

- ◆ 観光スポット・公共施設等のバリアフリー設備の情報収集、データ化作業



- ◆ ブレインストーミングで考え出された4つのテーマ(イベント、エンターテインメント、データ収集、ゲーム)について、グループごとにアイデア出し



歩行者移動支援に関する取組(7)

「鎌倉まちあるきアイデアソン@長谷別邸」開催時の様子

◆ グループごとに、アイデア出しの結果を発表



◆ 表彰



歩行者移動支援に関する取組(8)

「鎌倉まちあるきアイデアソン@長谷別邸」発表内容

グループ名	タイトル	概要
ぼたもち	バリアフリー天国 (ぼりてん)	イベント企画。鎌倉海浜公園や由比ヶ浜海岸、周辺の地域を使って、バリアフリーに関わるまち全体でのイベントを提案。 目をふさいでみんなで食事等を行うイベント、ビーチでは波の音を楽しむイベント等。
welcomeプロジェクト	welcomeプロジェクト	「鎌倉コンシェルジュ」を設置し、鎌倉のおもてなしを向上させるアイデア。 外国人の方、障がいのある方全てが鎌倉のまちを楽しめるように、パート(エリア)を決めてコンシェルジュを配置し、車椅子の人を手伝ったり、外国語での案内をフォローする。
オープンデータ <準優勝>	オープンデータを 活用した未来のカ マクラ	データ収集方法のアイデア。ドローンの3Dスキャンを用いたバリアデータの取得。一般の方にもレンタサイクル、レンタセグウェイ、レンタル車椅子などを利用する際に、ドライブレコーダーなどのIoTデバイスを活用してバリア等データの収集を行い、まち案内等に活用する。
KAMAKURA QUEST <優勝>	「鎌倉無双」アプリ	ゲームアプリのアイデア。バリアをクリアする(体験する)ことに焦点をあて、クリアに応じてアバターのレベルアップと、エリア制覇を可視化するゲームアプリ。クリアする際に、バリア情報の収集も行う。 周囲の助けをもらう呼びかけ機能を持たせ、人の温かさでバリアをクリアしていくことを狙いとする。

オープンデータを活用した歩行者移動支援推進 に向けた課題と方向性

✓ 自治体の保有データの把握と公開

- どのようなデータを保有しているのかの把握が出来ていない。
⇒ 保有データの可視化(リスト化)
- どのようなデータを公開すべきか等、市役所内部において共通認識が得られていない。
⇒ オープンデータ化におけるルール、手続きの確立。

✓ オープンデータ数の増大、継続的なメンテナンス

- オープンデータ化が通常業務に組み込まれておらず、進みづらい(更新されない)。
⇒ データ整備の共通ルール化。公共施設、避難所、AED等をはじめ、
どのようなデータ項目が整備されるべきかルールを作成。
- オープンデータによる具体的な成果が見えないため、オープンデータ化が進みにくい。
⇒ 具体的な成功事例の提示による職員の意識啓発。

✓ 民間と協働によるオープンデータ利用とサービス創出の促進

- ⇒ アイデアソン、ハッカソン等の市民参加型イベントの継続的な開催。ビジネス化など、民間活力の活用を誘発する仕組みづくり。

今後の展開

✓ 市役所におけるオープンデータ化の推進

- オープンデータの通常業務化(ルーティン化)ができなければ、データの拡充や推進は進まない。
- 職員の抵抗感の解消、手続きの明確化により推進につながる。
- オープンデータを用いた成功事例を職員に示すことにより、職員の意識を変え、オープンデータの推進につなげる。

✓ 近隣自治体との連携によるオープンデータ利用の推進

- 単独市でのオープンデータ推進は将来の手戻りも想定され、推進力を弱める。
- スケールメリットにより、取組の費用対効果を向上させることと、データの共通化による越境したサービス実現の可能性を検討することで、推進力を向上させることが可能。
- 3都市連携ハッカソンの成果や、既に進めている三浦半島での連携によるデータ公開の促進、イベントの開催を通じ、オープンデータ利用の推進を図る。

今後期待する事項

✓ 国への期待

- データフォーマット・共通化については、国及び広域自治体による推進姿勢があつてこそ、現場での取組につながる。
- 先進的・新規的な取組には実証実験として委託事業・補助制度があるが、具体事例の横展開こそが実際に推進の動力となるのではないか。
- データの有用性を自治体レベルで意識できる環境が必要であり、事例の紹介に努めていただきたい。

✓ 社会への期待

- 行政へデータを求める動きが増えることで、オープンデータ化の後押しとなる。
- 行政データだけではなく、新たなデータを作り上げていき、共有財産としてのデータを増加させることで、住民やまちづくりの主体へ還元されていく仕組みとなっていって欲しい。

地域での取組(1)

● 市と連携したオープンデータ利用推進のためのハッカソン

- 市のオープンデータを利用して、課題先進地とも言える鎌倉と、世界に共通する課題に取り組むハッカソンを開催。禅寺に泊まり込みで座禅も行うユニークなハッカソン「禅ハック」として知名度を上げ、各回70～80人が参加。市からオープンデータの内容と地域課題についてのインプットを受けハッカソンに臨むことで、オープンデータ公開についての認知拡大と利活用のアイデア拡張に貢献。(過去3回実施)
- <http://zenhack.jp>
- 成果：
 - 第2回はゴミ問題をテーマとし、ハッカソン開催に合わせて鎌倉市がゴミ問題についてのオープンデータを公開。(週間収集量、家庭系・事業系別ごみ焼却量・発生量の推移、リサイクル率の推移、燃やすごみ組成調査概要、資源物収集量など)
 - 第3回は食の問題をテーマとし、ハッカソン開催に合わせて鎌倉市から食と健康に関するアンケート調査報告書のデータ提供を受け、共同でオープンデータ化、ハッカソンで活用。
- 課題：
 - ハッカソン成果物の活用についての市との協働～地域で実際に活用されるサービス・アプリを生み出すこと
 - 観光・交通・福祉・財政など、地域課題・行政課題について市と連携して、テーマ設定を行い、ハッカソンのみならず課題解決のアイデア会議やワークショップを定期的を開催するなど、継続性のある取り組みで実効を上げること。



地域での取組(2)

● 防災啓蒙イベント

- 毎年9月に「津波が来たら高いところに逃げるプロジェクト」と題し、震災・津波被害・防災について啓蒙イベントを開催。津波被害のイメージをビル壁面にシートで再現、講演会、映画上映、防災グッズ体験などと、歩行者の避難の観点から、一般市民・サーファ・子供・お年寄り・車椅子利用者などの参加による逃げ道実験(避難経路の実踏)イベントを実施。(過去3回実施)

- <http://kamacon.com/bousai/2015/>

● 成果:

- 逃げ道実験は回を追うごとに参加者が増え、2015年には陸での避難に加えて、海の中からも行うなど、6つのグループに分かれ、合計約170人が参加して避難体験を行った。

- グループ1/幼稚園児たちの避難(約40名)
- グループ2/オフィスからの避難1(約15名)
- グループ3/オフィスからの避難2(約15名)
- グループ4/海の中からの避難1(約50名)
- グループ5/海の中からの避難2(約20名)
- グループ6/当日飛入り逃げ道体験(約25名)

- 足が不自由なため車椅子を使用している社員を含むオフィスからの避難を実施したグループでは、避難の介助、ルートを選定などに多くの実践的な課題と知恵を体験。

● 課題:

- 年1回のイベントにとどまらず、日常的に防災・避難についての意識向上を図るツール、イベントなどの検討



地域での取組(3)

● 逃げ地図プロジェクト

- 市内で震災・津波時の避難場所への経路を歩行者移動支援の観点から実踏調査しているプロジェクトチームが活動をカマコン定例会*でプレゼン、活動の啓蒙とボランティアメンバー募集、現地調査などを支援。
- 成果：
 - 地図作成の新たなメンバーの参加
 - 国交省防災アプリ実験への参加、連携
- 課題：
 - 地図の配布、アプリ化などの市民への普及施策
 - 地図のアップデートに必須となる、デジタルデータ化の手法開発。

● 観光ユニバーサル化プロジェクト

- お年寄り・車椅子利用者・視覚/聴覚障がい者などを含むメンバーで、街コン・グループ観光の活動を行っているグループが、活動内容を定例会でプレゼン、活動の啓蒙とボランティアメンバー募集、観光に関わる現地調査とユニバーサルなまちあるきイベント開催、開催費用のクラウドファンディングなどを支援。
- 成果：
 - 2015年だけでも4回の実地調査を行い、バリアフリーマップを充実
 - まちあるきイベントには愛知、大阪、群馬など遠隔地も含め25名の障がい者が参加。
- 課題：
 - バリアフリーマップの整備と広報・周知
 - 市内他団体のバリアフリーマップの取り組みとの連携

*カマコン定例会:毎月1回市内外の様々なチャレンジ・アイデアを持つ人・グループが5組プレゼンテーション,数十名の参加者が5グループに分かれてブレインストーミングを行うアイデア会議。幅広いアイデアと活動の仲間が見つかる地域活性イベントとして注目され全国各地に飛び火中。